

リオデジャネイロ五輪は、レスリング女子58kg級で金メダルを獲得、女子個人種目で五輪史上初の4連覇を果たした伊調馨選手など青森県勢の活躍が目立った。日本の金メダル12個、総メダル数41個と

1964年の東京五輪では、東海道新幹線や東京モノレールの開通など戦後の復興をアピールした。富士山頂に大型リーダーが建設されたのもこの年である。

見創見 Tuesday

59年の伊勢湾台風では、台風の接近と伊勢湾の満潮の時刻が重なったことで大規模な高潮被害が起こり、死者・行方不明者5千人という大災害となった。これを受けて台風の進路をいち早く予想するために、富士山頂に日本列島をほぼカバーする大型リーダーを作るようになった。

この事業は大変なもので、新田次郎原作の小説が石原裕次郎主演の映画となった。またNHKの「プロジェクトX」挑戦者たち」の第1回放送の主題にもなっている。

いう成績も素晴らしいが、メダルを逃した選手も数多くの感動を与えてくれた。この場を借りて感謝したい。次の2020年東京五輪への期待も高まっている。

大型リーダーはその後、多くの台風の進路を予想し、災害を最小限に抑えることに貢

開催時期の再検討を願う

しかし、99年には台風の進路を人工衛星や長野県、静岡県などのリーダーで予想できるようになり、膨大な維持費を必要とする大型リーダーによる観測は廃止された。

しかし、数日前に予想できず、久慈市をはじめ東北、北

海道を中心に多大な被害を与えた。岩手県では今なお、千人を超える人々が孤立状態となっている。一日でも早い救出を願うとともに、被災された方にお見舞い申し上げたい。

8月に台風が四つ上陸したのも、62年と並んで過去最多となった。今年の台風は6月まで発生せず、7月4個、8月7個と、発生数こそ計12個と少ない反面、接近数、上陸数とも多い。台風12号も九州に上陸する恐れがある。過去30年の年平均を見ると、発生数、接近数、上陸数とも8月が一番多く、続いて9月、7月に多くなっている。

また、福島原発事故からの復興をアピールできるような、真剣な対策を願っている。

東京五輪と台風

三浦 和彦

東京理科大学教授



みうら・かずひこ
1955年八戸市生まれ。東京理科大学大学院修士課程修了。認定NPO法人富士山測候所を活用する会事務局長。今年1月から八戸特派大使。東京在住。

25日までは南大東島の南に停滞していたが、26日に向きを北東へ変えた。この間、暖かい海上でエネルギーを吸収し、28日午後9時には940

この台風は、日本の近くで生まれた台風の中で観測史上「最長寿」となった。8月19日に八丈島東で発生した台風は、日本列島を挟む東西の高気圧に進路を阻まれ、迷走しながらゆっくりと南西へ進んだ。

ただ、今年7月前半は涼し

へクトパスカルまで発達、大型で非常に強い台風となり、30日に東北の太平洋側に上陸した。東北の太平洋側に台風が上陸したのは、51年の統計開始以来初めてである。通常、台風は上陸すると地面の摩擦により勢力を弱めるが、勢力を保ったまま直撃したわけである。

64年東京五輪は夏の暑い日

を避け、台風シーズンが終わるころに開催された。小学5年生の時、校外授業で見た市川崑監督の記録映画で、10月10日の開会式の青空に描かれた五輪のマークが目につかぶ。今からでも遅くはない。開催時期の変更を検討していただきたい。